



物語の内的真実に気付くことのできる読書の方法とは



研究概要

本研究では、内的真実に気付ける読書方法を提案することを目的とした。今年度は「共感」という視点を新たに取り上げ、物語を読んだときの感情と現実の体験で起きる感情の関連性を他者と共有する読書方法②を考案した。実証実験の結果から、物語には現実と関連した部分があると認識できる効果がある可能性が考察された。今後はより多くの被験者に実証実験を行い、方法を改善することが求められている。

背景・目的

目的

物語を読む意義として「内的真実」の存在があることを読み手に気付いてもらう
↓
内的真実に気付ける読書方法

内的真実

物語に含まれている、現実と本質的に関連した部分
地域や時代を超えた人間の普遍的無意識を描いたもの

例えば、神話や物語には「英雄の冒険」を描いたものが多い
冒険の展開には、以下のようなパターンが見られる
未知の世界へ出かける → 試練に直面し乗り越える → 帰還する
人間の個人の経験に依らない普遍的な部分が物語に反映されている

物語は単なるフィクションではなく、すべての人が共感できるもの

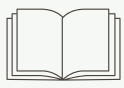
しかし...

- 物語を読み手自身に関係のない虚構として読む人は少なくない
- 日常的に読書をする人が減っている

昨年度までの研究

実証実験の実施

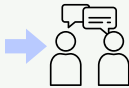
先行研究の調査を基に以下の読書方法を考案し、実証実験を実施



物語を読む

内容：
①この物語の中で一番印象に残ったシーンはどこですか？
②この物語のテーマはなんだと思いますか？
③②で考えたテーマに関連した自分の体験などはありますか？

ワークシート



共有

結果

物語のテーマを適切に理解 → 現実と関連付けやすい
他者との共有が有効だと感じた人が多かった
ワークシートが煩雑

考察

方法によって、内的真実に気付けるという結果は得られなかった
物語のテーマを被験者自身が発見することが必要
↓
被験者個人の読解力によって
テーマと経験との関連付けの質が変わってしまう
被験者の読解力に依存しない方法へと改善

先行研究

物語同一性

リクール(仏哲学者)

人間は「自分とは何者か」を説明するときに、一つの言葉を以て表現することはできず、必ず何かしらの物語を語らなければ説明できない

自己についての説明も一種の物語であり、物語によってアイデンティティが表現されている

「現実が物語のようだ」と認知することが自己の理解につながる

三つのミメシス論

リクールによる

人間はどのように自分の物語を理解すべきかについて三段階に体系化

先行形象化 事象を理屈ではなく、感じたそのままで理解する

統合形象化 事象を物語として構成し再現する
再形象化 造られた物語を受け手として受容する

自分自身の経験を他人に語ることで経験を物語として理解できる

物語への没入

小山内(2020),鈴木(2002)

没入

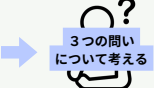
物語を読む時、読者は心の中で物語の中に自分自身を投影し、現実世界と類似したシミュレーションの「状況モデル」を構築する

他者の感情を類推したり想像したりする社会的能力の伸長が報告されているが、没入体験の度合いには個人差がある

すべての読者に共通するような心の動きに注目する必要がある

結果・考察

新たに考案した読書方法



考える問い：

- ①この物語であなたが最も共感した場面はどこですか？
- ②その場面を読む時はどのような感情ですか？
- ③その感情が生まれるのはどのような体験をするときですか？(具体的な過去の場面を思い出してみましょう)

共感

感情

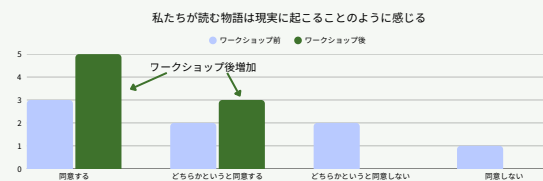
経験

人間の普遍的な心理プロセスである「共感」に注目し、共感したシーンを基に経験との結びつきを考える読書方法へと改善

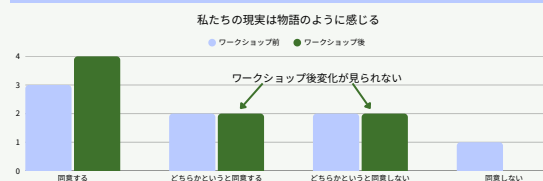
実証実験

日時：12月11日(木) 放課後
対象：本校15年生、物語が好きな人 人数：8
題材：レオ・バスカリア『葉っぱのフレディ』

アンケート結果

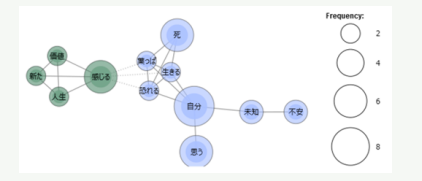


読書方法の実践によって物語の持つ現実性に気付けるという効果が認められる



現実のもつ物語性の認知には顕著な効果がなく、更なる改善が必要

テキストマイニング



多くの人に普遍的な「共感」という部分に着目する

個人の読解力に依らず、自分と物語の間にある共通性、関連した経験を想起

内的真実の発見

被験者全員から「他者との共有によって新たな発見があった」「ワークショップの作業量がちょうどよかった」という評価を得た

今後の展望

新たに考案した読書方法②により、「私たちの読む物語は現実のようだ」という認識が高まることが分かった。また、求められる作業量が「ちょうどよい」というフィードバックを被験者全員から受けたため、読む人が日常的に実践可能で、なおかつ効果的な方法を提案できたという点で評価できる。しかし、現実の持つ物語性への認知にはまだ顕著な効果が認められていないため、更に方法を改善する必要がある。また、今回対象とした被験者が物語に対して肯定的な集団であったため、どのような属性を持つ人に有効性があるのか確かめるためにも、更なる実証実験が必要である。

Kidd, D. C., & Castano, E. (2013). Reading literary fiction improves theory of mind. Science (New York, N.Y.), 342(6156), 377-380.
Mar, R. A., & Oatley, K. (2008). The Function of Fiction Is the Abstraction and Simulation of Social Experience. Perspectives on Psychological Science, 3(3), 113-122.
Palincsar, S. A., & Brown, A. L. (1984). Reciprocal teaching of comprehension-fostering and comprehension monitoring activities. Cognition and Instruction, 2, 117-175.
小山内(2020). 『物語世界の没入体験は読者をどう変えるか?』『メタ認知心理学研究』, 18(1), 7-11.
小山内(2020). 『物語世界の没入体験は読者をどう変えるか?』『メタ認知心理学研究』, 18(1), 7-11.
清原幸子・大塚英樹(2003). 『相互説明による読者の個別指導：対象レベルメタレベルの導入による読者の読解能力の向上』『教育心理学研究』, 51, 218-228.
藤原新一郎(2014). 『物語の理論と自己同一性』。アル・リクール『神話と物語』を中心に。『文芸学研究』, 10, 21-48.
ユング, C. G. (2024). 『ETN レクチャー-第2巻 意識と無意識』, 創元社。